

令和7年度 公民科

教科	公民	科目	公共	単位数	2単位	年次	1年次
使用教科書	「高等学校 公共」(第一学習社)						
副教材等	「ライブ! 公共 2025」(帝国書院)、「公共ノート」(第一学習社)						

1 担当者からのメッセージ(学習方法等)

公共は人間や社会の在り方について学ぶだけではありません。皆さんが社会で活躍するところには今以上に日本は厳しい挑戦の時代を迎えていると思われます。その社会に生きる皆さんたちが諸課題を追究、解決する活動を通して、グローバル化する国際社会において主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を身に着けることが目的です。求められる学習はまず、公共という科目に興味を持つこと、日々の授業を大切にすること、単に「覚える」だけでなく、様々な課題について「考える」姿勢が大切です。興味を持ち、考えることで、皆さんの人間力が高まることを期待します。

2 学習の到達目標

- (1) 現代社会における様々な社会制度の仕組みや諸課題を理解する。
- (2) 現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、表現することができる。
- (3) グローバル化する国際社会において、平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者として主体的に行動をすることができる。

3 評価の観点及びその趣旨

観 点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。	よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1 学 期	第 1 編 第 1 章 公 共 的 な 空 間 を つ く る 私 た ち	I 公共的な空間と人間とのかかわり 1 社会に生きる私たち 2 個人の尊厳と自主・自立 3 多様性と共通性 4 キャリア形成と自己実現	a: 青年期が人生の中でどのような意味を持つか理解できる。 人間が個人として尊重される存在であることを理解できる。 自分自身が自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体になることが自らのキャリア形成とともによりよい社会の形成に結び付くことについて理解している。 b: 公共的な空間と人間との関わり、個人の尊厳と自主・自律、人間と社会の多様性と共通性などに着目して考えることができる。 c: 公共的な空間をつくる私たちについて、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	確認テスト 定期考査	提出課題 定期考査	提出課題 振り返りシート
		II 社会に参画する自立した主体として 1 伝統や文化とのかかわり	a: 伝統や文化、先人の取り組みや知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重できる存在であることを理解できる。 b: 伝統や文化と自らの行動様式や価値観との関係について考察している。	確認テスト 定期考査	提出課題 定期考査	提出課題 振り返りシート

※令和4年度以降入学生用

第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方	I 人間についてのあり方生き方についての探求 1 人間と社会のあり方についての見方・考え方 2 実社会の事例から考える ～環境保護 3 実社会の事例から考える ～生命倫理	a:選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解している。 b:環境保護や生命倫理に関する事例をもとに、自らも他者も納得できる解決方法を見出すことに向け、選択・判断の手掛かりとしての2つの考え方を活用し、主張を明確に表現することができる。 c:現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	確認テスト 定期考査	提出課題 定期考査	提出課題 振り返りシート
	II 選択・判断の手がかりとなる倫理的価値 1 公共的な空間を形成するための考え方 2 よりよく生きる行為者として活動するために	a:人間としてのあり方生き方に関わる諸資料から、よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。 b:倫理的価値の判断において、自らも他者も共に納得できる解決方法に向け、思考実験などを通して、多角的・多面的に考察、表現している。 c:先哲の生き方などを参考に、人間としてのあり方生き方について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	確認テスト 定期考査	提出課題 定期考査	提出課題 振り返りシート

※令和4年度以降入学生用

	第3章 公共的な空間における基本原理	I 自立した主体となることに向けて 1 人間の尊厳と平等 2 個人の尊重 3 民主政治の基本原理 4 法の支配 5 自由・権利と責任・義務	a:人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作るうえで必要であることについて理解している。 人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本原理について理解している。 b:公共的な空間における基本原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現している。 c:自立した主体になることに向けて主体的に考え取り組んでいる。	確認テスト 定期考査	提出課題 定期考査	提出課題 振り返りシート
		II よりよい公共的な空間づくりをめざして 1 世界のおもな政治体制 2 日本国憲法に生きる基本原理	a:個人と国家・社会との関係から、世界のおもな政治体制について、自己のあり方生き方と民主主義がどのように関係しているか理解している。 日本国憲法の基本的な原理を理解している。 c:公共的な空間における基本原理と日本国憲法の基本原理を関連させながら、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	確認テスト 定期考査		提出課題 振り返りシート
	第2編 第1章 法的な主体となる私たち	主題1 法や規範の意義と役割 1 私たちの生活と法 2 法と基本的人権 3 自由・平等と法・規範 4 法をよりよく変えていくために	a:法や規範の意義及び役割に関わる現実社会の課題を理解している。 法の種類を理解するとともに、法は国民の行為を規制し社会の秩序を維持するだけでなく、国民の活動を積極的に促進し、紛争解決など、日常生活に関係することを理解する。 b:身近な紛争や課題を取り上げ、どのようにすれば公平・公正に調整できるか考察、表現できる。 c:法や規範の意義と役割について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	確認テスト 定期考査	提出課題 定期考査	提出課題 振り返りシート

※令和4年度以降入学生用

		主題2 契約と消費者の権利・責任 1 さまざまな契約と法 2 消費者の権利と責任	a:契約と消費者の権利・責任に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 b:家庭科など他教科で学んだ知識も踏まえ、具体的な主題を設定し、その解決に向けて多角的・多面的に考察し、表現している。 c:契約と消費者の権利・責任について、具体的な例をもとに、主体的に解決しようとしている。	確認テスト 定期考査	提出課題 定期考査	提出課題 振り返りシート
		主題3 司法参加の意義 1 裁判所と人権保障	a:国民の権利を守り、社会秩序を維持するために、公正な裁判が保障され、法律家が重要な役割を果たしていることを理解している。 b:検察審査会や国民の司法参加の意義など、具体的な主題を設定し、その主題を追究・解決するために考察したり構想したりしたことを論拠をもって表現できる。 c:司法参加の意義について、諸課題を主体的に解決しようとしている。	確認テスト 定期考査	提出課題 定期考査	提出課題 振り返りシート
	第2章 政治的な主体となる私たち	主題4 政治参加と公正な世論の形成 1 選挙の意義と課題 2 政治参加と世論形成 3 国会と立法 4 内閣と行政の民主化 5 地方自治と住民の福祉	a:政治参加と公正な世論形成、選挙の意義などを理解している。 国会の地位と権限、議院内閣制の仕組み、内閣の権限、行政の民主化について、理解している。 b:選挙の仕組み、政党の役割、世論の形成について、様々な情報手段を活用して、考察・表現している。 地方自治の仕組みを理解しつつ、地方自治の課題を考察、表現できる。 c:模擬選挙や模擬請願などの学習を通して、現代の諸課題を主体的に考え、考察しようとしている。	確認テスト 定期考査	提出課題 定期考査	提出課題 振り返りシート

※令和4年度以降入学生用

2 学期	主題5 国際社会と国家主権 1 国家と国際法 2 国境と領土問題 3 国際連合の役割と課題	a:主権国家が並び立つ国際社会がどのように成り立っているか理解するとともに、国際社会と国家主権に関わる現実の事柄や課題を理解する。 b:国際法の意義と役割、国境や領土をめぐる諸課題、国際連合などの国際機関の役割や課題について、必要な情報を収集し、考察・表現することができる。 c:国際社会や国家主権に関わる様々な問題について、主体的に考え、解決する道を考え出そうとする。	確認テスト 定期考査	提出課題 定期考査	提出課題 振り返りシート
	主題6 日本の安全保障と防衛 1 平和主義と安全保障 2 核兵器の廃絶と世界平和	a:日本国憲法の平和主義について理解を深めることができる。 b:核兵器を廃絶するためには何が必要かを考え、軍縮の意義や効果について、様々な観点から考察することができる。 c:日本の安全保障と防衛について、国連憲章や日米安全保障条約、平和主義を掲げる日本国憲法のもと、現代の諸課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。	確認テスト 定期考査	提出課題 定期考査	提出課題 振り返りシート
	主題7 国際社会の変化と日本の役割 1 今日の国際社会 2 人権・民族問題と地域紛争 3 国際社会における日本の役割	a:人種・民族問題と紛争地域の実態、難民問題などの国際社会に起きている諸問題や国際社会の変化、国際社会の中での日本の役割について理解している。 b:持続可能な開発に触れながら、国際社会の安定について、国民レベル、国家レベル、国際レベルで何ができるかを、様々な観点から考察し、論拠をもって表現できる。 c:国際社会の変化と日本の役割について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	確認テスト 定期考査	提出課題 定期考査	提出課題 振り返りシート

※令和4年度以降入学生用

	第3章 経済的な主体となる私たち	主題8 雇用と労働問題 1 私たちと経済 2 労働者の権利と労働問題	a: 少子高齢化による労働力不足が問題となる中、活発な経済活動と労働者の働きやすさを共に成り立つために必要なことを理解する。 b: 雇用と労働問題について、日本の雇用慣行の崩れなど、現代の諸課題を主体的に考察、構想し、論拠をもって表現している。 c: 雇用と労働問題について、現代の諸課題を議論しつつ主体的に解決し、自分の将来のあり方について考えようとしている。	確認テスト 定期考査	提出課題 定期考査	提出課題 議論の態度 振り返りシート
		主題9 社会の変化と職業観 1 技術革新の進展と産業構造の変化 2 企業の活動 3 農林水産業の現状とこれから	a: 社会の変化と職業観について、人工知能の進化の影響など、現代の産業や職業に関する諸課題を理解している。 b: 技術革新の進展、産業構造の変化、企業の活動、農林水産業の現状などを様々な情報をもとに考察し、論拠をもって表現できる。 c: 社会の変化と職業観について、現代の諸課題を主体的に解決し、自分の将来のあり方について考えようとしている。	確認テスト 定期考査	提出課題 定期考査	提出課題 振り返りシート
		主題 10 市場経済の機能と限界 1 市場経済と経済運営 2 市場経済のしくみ 3 経済発展と環境保全 4 経済成長と国民福祉	a: 経済の基本的仕組み、市場経済の機能と限界に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 b: 価格の変化が企業や消費者に及ぼす影響や、外部不経済の代表である公害について理解し、それぞれの問題を解決するための方策を構想し、表現できる。 c: 市場経済の機能と限界について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	確認テスト 定期考査	提出課題 定期考査	提出課題 振り返りシート
3 学期		主題 11 金融のはたらき 1 金融の意義や役割	a: 資金の流れ、金融機関の役割、日本銀行の役割など金融に関わる基礎的な事柄について理解している。 c: 金融のはたらきの知識をもとに、金融商品との関わり方など現実的な問題を考えようと努めている。	確認テスト 定期考査		提出課題 振り返りシート

※令和4年度以降入学生用

	主題 12 財政の役割と社会保障	a:少子高齢化が進む中、財政の役割と社会保障にかかわる現実社会の事柄や課題を理解している。 b:財政政策の意義や社会保障制度の意義の理解を踏まえて、それぞれの課題について多面的・多角的に考察・表現できる。 c:財政の役割と社会保障について、現代の諸課題を解決するための方策を具体的に考えている。	確認テスト 定期考査	提出課題 定期考査	提出課題 振り返りシート
	主題13 経済のグローバル化 1国際分業と国際貿易体制 2国際収支と為替相場 3経済のグローバル化と日本 4地域的経済統合の動き 5国際社会における貧困や格差 6地球環境問題 7資源・エネルギー問題 8国際社会のこれから	a:経済のグローバル化に伴う諸問題、貿易や為替相場、地域的経済統合など国際経済の諸問題について基礎的な理解ができている。 b:地球環境問題など国際的な問題になっている事柄について、資料を収集し、多角的・多面的に考察することができる。 c:国際協力のあり方、国際協調の重要性から、日本の役割について自分自身の問題として、主体的に解決しようとしている。	確認テスト 定期考査	提出課題 定期考査	提出課題 振り返りシート

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

令和7年度 公民科

教科	公民	科目	政治経済	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	「詳述政治・経済」 (実教出版)						
副教材等	なし						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

政治・経済の視点を重視しながら、現代社会について理解します。公共で学んだ内容を基礎として、さらに深く、政治や経済の仕組みを理解しながら、グローバル社会を向かえ、複雑化する世界について探究を進め、深い理解をめざします。自分が暮らす世界が、どのような仕組み・理論で動いているのかを深く理解し、主体性を発揮して自ら問いを考え、探究する力を養いましょう。

2 学習の到達目標

社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。また、国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。

3 評価の観点及びその趣旨

観 点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	現代の政治・経済分野における諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における政治・経済の基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。	よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の政治・経済分野の諸課題を主体的に解決しようとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりとともに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和4年度以降入学生用

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1 学期	第1編1章1民主政治と法	○政治とは何か。国家とは何か。法の意義と役割とは何か。近代民主政治は、どのようにして成立したのだろうか。 ・政治、国家、法のあり方について考える。	a:政治と国家、政府が何であることを理解している。法の意義と役割のほか、法の分類についても理解している。 b:政治とはどのような営みか、自身の身近な事例にも言及しながら考察し、適切に表現している。 c:国民主権を担う公民としての自覚をもとに、民主政治のあり方や法の意義などについて主体的に理解追究しようとしている。	考查	考查 ワークシート	ワークシート
	第1編1章2民主政治の基本原則	○社会契約説とは何か。法の支配とは何か。基本的人権の保障はどのように拡大していったのだろうか。 ・基本的人権の歴史的発展や法の支配について理解する。	a:社会契約の考え方について理解している。また、ホッブズ、ロック、ルソーの考え方の共通点相違点を資料から読み取り、理解している。基本的人権の歴史的発展について理解している。法の支配や立憲主義について理解している。 b:基本的人権や法の支配の重要性について、歴史的背景にも言及しながら考察し、それらを適切に表現している。 c:国民主権を担う公民としての自覚をもとに、基本的人権や法の支配の重要性などについて主体的に理解追究しようとしている。	考查	考查 ワークシート	ワークシート
	第1編1章3民主政治のしくみと課題	○国民主権とは何か。議会制民主主義とは何か。権力分立と立憲主義はなぜ重要とされているのだろうか。 ・民主政治のしくみと課題を理解したうえで、権力分立と立憲主義の重要性を理解する。	a:民主政治のしくみと課題を理解している。 権力分立と立憲主義について、その重要性を理解している。 b:多数決の長所と短所について、自身の身近な事例にも言及しながら協働的に考察し、適切に表現している。 c:国民主権を担う公民としての自覚をもとに、民主政治の課題について主体的に理解追究しようとしている。	考查	考查 ワークシート	ワークシート

※令和4年度以降入学生用

第1編1章4	○世界の国々が採用している議院内閣制と大統領制には、民主政治の諸原理がどのように反映されているのだろうか。 ・振り返りや、教科書の資料の読み取りを踏まえ、各政治制度の特徴を理解する。	a:議院内閣制大統領制をはじめとする各国の政治制度の特徴について、民主政治の諸原理にも着目しながら理解している。 各国の政治制度に関連する諸情報を信頼性の高い情報源から収集し、知識の補強といった形で適切に扱うことができている。 b:各国の政治制度の共通点相違点について、立法府と行政府に着目しながら比較考察し、適切に表現している。 c:国民主権を担う公民としての自覚をもとに、現実の政治制度に関する課題について主体的に理解追究しようとしている。	考查	考查 ワークシート	ワークシート
第1編2章1	○日本国憲法はどのようにして制定されたのか。明治憲法とはどのような違いがあるのだろうか。日本国憲法の三大基本原理とは何か。憲法改正とは何か。 ・日本国憲法の成立過程を踏まえつつ、明治憲法との違いを理解する。 ・日本国憲法の基本原理を理解したうえで、憲法の改正手続きについて考える。	a:日本国憲法の成立過程を理解している。二つの憲法の原理と相違点について、理解している。憲法改正とその限界について、理解している。諸外国の憲法に関連する諸情報を信頼性の高い情報源から収集し、知識の補強といった形で適切に扱うことができている。 b:日本の憲法改正手続きについて、その運用上の課題について協働的に考察し、適切に表現している。 c:憲法の最高法規性や日本国憲法の原理、改正手続きなどについて主体的に理解追究しようとしている。 日本国憲法の三大基本原理が私たちの人権や政治に果たしている役割について関心を高め、主体的に追及しようとしている。	考查	考查 ワークシート	ワークシート

※令和4年度以降入学生用

第1編2章3自由に生きる権利 (1) 第1編2章4自由に生きる権利 (2) 第1編2章5平等に生きる権利 第1編2章6社会権と参政権・請求権	第1編2章3自由に生きる権利 ○自由権とは何か。日本国憲法が保障する基本的人権のうち、精神の自由にはどのような自由があるのだろうか。 ○自由権が制限されるのは、どのようなときか。自由権をめぐる問題とされているのはどのようなことだろうか。 ・自由権の内容について理解する。 ○法の下での平等とは何か。現代社会にはどのような差別があり、どのような対処がなされているのだろうか。 ・自由権の内容について理解する。 ○社会権にはどのような権利があり、どのように保障されているか。また、参政権、請求権とはどのような権利だろうか。 ・社会権の内容について理解する。	a:自由権平等権社会権などの諸権利の内容について、各種判例も踏まえながら理解している。冤罪や死刑制度、さまざまな差別、生存権の保障など、人権に関する現実社会の課題について理解している。自由権平等権社会権と関連する判例（教科書掲載外の判例）を信頼性の高い情報源から収集し、それぞれ適切に分類整理したうえで、知識の補強といった形で適切に扱うことができている。 b:自由権、平等権、社会権について、各種判例や自身の身近な事例などと結びつけながら協働的に考察し、適切に表現している。日本国憲法における人身の自由について、資料に基づいて考察し、適切に表現している。死刑制度の是非について、図などを利用して、協働的に考察し、適切に表現している。差別を解消すべき理由について、『公共』で学んだ「人間の尊厳」や「個人の尊重」といった視点に立ちながら、適切に表現している。社会権の保障(すべての人が人間らしい生活を送れるようにするために国がすべきことは何か、など)について、協働的に考察し、適切に表現している。 c:基本的人権が保障されていることの意義を知り、関心が高まっている。また、たとえば平等権と社会的な差別の諸課題について多面的かつ主体的に考察し、よりよい社会の実現を視野に、学習したことを社会の改善に生かそうとしている。	考查	考查ワークシート	ワークシート
第1編2章7新しい人権	第1編2章7新しい人権 ○新しい人権は、どのような社会の変化のなかで求められてきたか。どのような権利が主張されているのだろうか。 ・新しい人権について理解する。 ○人権保障をめぐる課題にはどのようなものがあるだ	a:環境権知る権利プライバシーの権利などの新しい人権の内容とそれらの権利が主張されるようになった背景について理解している。教科書の本文を通じて、情報化社会における人権について理解している。社会的権力による人権侵害の課題や人権の国際化の動き、公共の福祉について理解している。公共の福祉の具体的な事例を信	考查	考查ワークシート	ワークシート

※令和4年度以降入学生用

第1編2章8人権の広がり	ろか。人権と人権が衝突した場合、どのように調整すべきなのだろうか。 ・公共の福祉について理解する。	信頼性の高い情報源から収集し、知識の補強といった形で適切に扱うことができています。 b:知る権利の内容理解を踏まえたうえで、「忘れられる権利の是非」について多面的に考察し、適切に表現している。現実社会の問題の解決と個人の権利との調整について、生徒みずから調べて収集した具体的な事例にもとづきながら協働的に考察し、適切に表現している。在日外国人の権利について、教科書の時事コラムなどを踏まえたうえで協働的に考察し、適切に自分の考えを表現している。 c:新しい人権について主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。公共の福祉について主体的に追究することを通して、個人と個人の権利の衝突を調整の方法を社会生活に生かそうとしている。			
第1編2章9平和主義と自衛隊	○平和憲法のもと、どのようにして自衛隊は創設されたのか。その背景とは何だろうか。 ・日本の安全保障政策の展開について理解する。 ○日米安全保障体制の役割は、どのように変化しているのか。沖縄がかかえている課題とは何だろうか。 ○有事法制とは何か。徹底した平和主義をかかげる日本が、今後、世界で求められることは何だろうか。 ・こんにちの安全保障政策の課題について理解する。	a:日本国憲法の平和主義の内容と日米安保体制がうまれた背景について理解している。資料を通じて、自衛権に関する政府解釈の変化を読み取ることができている。 1990年代以降の安全保障体制の変容とこんにちの課題について理解している。教科書を利用して、集団的自衛権について多面的に理解している。日本の安全保障をめぐる現状と課題、自衛隊の海外活動の現状といった諸情報を信頼性の高い情報源から収集し、知識の補強といった形で適切に扱うことができています。 b:防衛関係費と社会情勢との関係について、教科書を利用して、多面的に考察している。資料の内容理解を踏まえたうえで、「自衛のための必要最小限度の実力はどのように限界づけられるのか」といった議題について多面的に考察し、適切に表現している。沖縄の基地問題について、教科書のの時事コラムなどを利用して協働的に考察構想し、それらを適切に表現してい	考查	考查 ワークシート	ワークシート
第1編2章10日米安全保障体制					

※令和4年度以降入学生用

	の 変 化 第1 編2 章 11 21 世 紀 の 平 和 主 義		る。 c:集団的自衛権について関心が高まっており,集団的自衛権が他国との関係でどのような影響を及ぼしうのかについて主体的に検討しようとしている。我が国の安全保障と防衛について主体的に追究して,学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。			
	第1 編3 章1 政 治 機 構 と 国 会 第1 編3 章2 内 閣 と 行 政 機 能 の 拡 大	○国会の地位・役割・構成・権限とはどのようなものか。国会・内閣・裁判所の関係はどのようなになっているのだろうか。 ・国会の役割や権限について理解する。 ○内閣はどのような構成で,どのような権限をもっているか。行政の民主化に必要なことは何だろうか。 ・内閣の権限と議院内閣制について理解する。	a:国会の役割や権限,運営について理解している。資料の読み取りを通じて,衆議院の優越について理解することができている。内閣の権限や議院内閣制のしくみについて理解している。行政権の拡大と官僚政治の課題,その転換に向けたさまざまな改革について,資料などを参考にしながら理解している。行政改革の現状,日本各地のオンブズマンの活動状況といった諸情報を信頼性の高い情報源から収集し,知識の補強といった形で適切に扱うことができている。 b:教科書の本文理解を踏まえたうえで,「国会はなぜ国権の最高機関とされるのか」といった議題について考え,適切に表現している。資料を通じて,議員立法に関する情報を読み取り,その課題について多面的に考察している。 c:日本の政治機構について主体的に追究して,学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。行政権の拡大について関心を深めており,官僚政治と官邸主導のそれぞれの長所と短所について主体的に追求しようとしている。	考查	考查 ワーク シート	ワークシート

※令和4年度以降入学生用

第1編3章3公正な裁判の保障	○司法権の独立はなぜ重要か。違憲審査権の意義は何か。司法制度改革で司法はどうか変わったのだろうか。 ・司法制度のあり方や司法参加の意義について理解する。	a:司法権の独立や裁判のしくみ、各裁判所の役割について理解している。違憲審査権について理解している。裁判員制度や検察審査会の意義と役割について理解している。司法制度改革の現状と課題について、信頼性の高い情報源から収集し、適切に整理することができている。 b:裁判員制度の意義と課題について協働的に考察し、適切に表現している。 違憲審査権の行使について、2つの観点(消極的観点:裁判所は直接国民を代表する機関ではないので、代表者からなる国会の定めた法律の違憲審査には消極的であるべきである/積極的観点:多数決による政治で無視されがちな少数者の権利を救済できるのは裁判所以外にないのだから、違憲の法律による権利侵害に対しては積極的に違憲審査すべきである)を踏まえながら考え、適切に表現している。 c:司法制度のあり方や司法参加の意義について主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	考查	考查 ワークシート	ワークシート
第1編3章4地方自治と住民福祉	○地方自治の本旨とは何か。日本の地方自治はどのような財政上の課題を持ち、国との関係はどうなっているのだろうか。 ・地方自治の本旨や住民の権利について理解する。 ・地方がかかえる課題について理解する。	a:地方自治の本旨である、団体自治と住民自治について理解している。地方自治の政治経済的な課題について理解している。住民自治に基づく住民の権利や住民投票など、住民の意思を反映させる手段について理解している。資料を通じて、地方公共団体の議会と長の選出について、読み取ることができている。教科書の時事コラムなどを通じて、地域社会の課題と取り組みについて、理解している。身近な地域の人口動向や防災面での課題について、信頼性の高い情報源から収集し、適切に整理することができている。日本の一極集中の現状と課題を複数の資料から読み取ることができている。 b:資料を通じて地方財政の課題を考察し、適切に表現している。人口動向	考查	考查 ワークシート	ワークシート

※令和4年度以降入学生用

		が地域に及ぼす影響について多面的多角的に考察し、適切に表現している。東京圏への一極集中を解消するための取り組みについて、「東京圏」と「その他の道府県」といった観点に立ちながら多面的多角的に考察し、適切に表現している。 c:地方がかかえる課題の概要を理解したうえで、身近な地域の人口動向や防災面での課題、東京圏への一極集中といった主題に興味関心をもち、人口動向が地域に与える影響や一極集中にともなう課題の解決策などを積極的に追究しながら、「持続可能な地域社会のあり方」や「地域における防災」を探究するための意欲を高めている。			
第1編3章5政党政治 第1編3章6選挙制度	○政党とは何か。戦後日本の政党政治はどう変遷してきたのか。政党政治にはどのような課題があるのだろうか。 ・日本の政党政治の特徴と課題について理解する。 ○日本の選挙制度の特徴とは何か。選挙制度の課題にはどのようなものがあるのだろうか。 ・日本の選挙制度の特徴と課題について理解する。	a:政党政治や日本の政党政治の課題について理解している。教科書の時事コラムなどを利用して、日本の政党政治の現状について理解している。日本の選挙制度の種類とそれぞれの特徴、議員定数の不均衡などの課題について理解している。教科書の資料を通じて、選挙制度の特色を読み取ることができている。選挙制度の課題、政治活動に関する規制の現状について、信頼性の高い情報源から収集し、適切に整理することができている。 b:日本の政党政治の課題について、「政治資金」や「政党間の競争」といった観点到ちちながら考え、適切に表現している。より公正な選挙制度のあり方について、「多様な民意の反映」や「政治の安定」といった観点到ちちながら多面的に考察し、適切に表現している。 c:政党の変遷について主体的に追究して、なぜ離合集散が繰り返されるのかといった観点到ちちから政党政治の課題を意欲的に解決しようとしている。選挙制度について関心を深めており、デジタル時代の選挙のあり方の課題を意欲的に解決しようとしている。	考查	考查ワークシート	ワークシート

※令和4年度以降入学生用

	第1編3章7世論と政治参加	○世論を政治に反映させるために何が必要か。メディアの責任とは何か。市民としてできることは何だろうか。 ・マス・メディアや市民運動の意義について理解する。	a: マスメディアや市民運動が世論形成と政治にもたらす影響について理解している。政治的無関心や無党派層の増加などの課題について理解している。教科書を通じて、インターネットによる世論形成の課題について理解している。民意を国政に反映させる多様な方法について、信頼性の高い情報源から収集し、適切に整理することができている。 b: SNS やインターネットの普及が世論形成に与えるメリットとデメリットについて多面的に考察し、適切に表現している。政治への参加について、教科書の問いを利用して協働的に考察し、適切に表現している。 c: 政治と民意の関係について主体的に追究し、民意を政治に反映させるための課題を意欲的に解決しようとしている。政治参加と公正な世論の形成について主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	考查	考查ワークシート	ワークシート
2学期	第2編1章1経済活動の意義 第2編1章2経済社会の変容	○経済活動とはどのように営まれているのだろうか。 限りある資金や資源はどのように選択され、配分されていくのだろうか。 ・経済的な効率性と公平性の対立関係について考える。 ○資本主義と社会主義はどのように変容しているのか。市場規模の広がりをみせる市場経済の展望と課題は何か。 ・政府の規模を念頭にして、経済的な課題への対応を考える。	a: 生産分配消費、希少性、トレードオフ、機会費用など、経済の根本的な概念について理解している。資本主義経済の成立と展開、経済における政府の役割の変化について理解している。教科書の問いを活用し、効率性と公平性について理解している。 b: 資源の効率的な配分について、効率性と公平性の観点から多面的に考察している。資本主義経済の成立以降、経済社会がどのように展開していったか、政府の役割の変化と関連させて考察している。大きな政府と小さな政府の考え方について、資料を利用しながら協働的に考察構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 c: よりよい社会の実現を視野に、経済的な効率性と公平性の関係について学習したことを社会生活に生かそうとしている。資本主義経済と社会主義経済の特徴について主体的に追究し	考查	考查ワークシート	ワークシート

※令和4年度以降入学生用

			て、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。			
第2編1章3	経済主体と市場の働き	○3つの経済主体間の経済循環はどのようなものか。 市場の効率性と、その限界はどのような点にあるのだろうか。 ・経済主体を理解する。 ・需給曲線を通して市場メカニズムを考える。 ・市場の効率性と公平性はどのように調整されるべきか考える。	a:需要と供給により価格と生産量に変化することを理解している。希少な資源の効率的配分をもたらす市場機構や、寡占や独占、外部不経済、情報の非対称性など市場機能の限界について理解している。情報の非対称性によって生じる問題の具体例について、信頼性の高い情報源から収集し、適切に整理することができている。 b:市場経済における生産要素の効率的な配分や、政府の適切な施策について多面的多角的に考察構想したりしたことを、論拠をもって表現している。情報の非対称性によって生じる問題とその対応策について、2つの視点（情報をもつ側ともたない側）を踏まえながら協働的に考察構想し、適切に表現している。 c:市場メカニズムの働きや市場の限界について主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。	考查	考查 ワークシート	ワークシート
第2編1章4	企業の役割	○株式会社のしくみにはどのようなものがあるのか。 企業がになうべき社会的責任とは何だろうか。 ・企業の役割と社会的責任について考える。	a:有限責任と無限責任の考え方について理解している。株式会社の仕組みについて、教科書の図を利用しながら、株主と経営者との関係を理解している。教科書の問いを利用して、株式売買に関する考え方を理解している。教科書の本文を踏まえながら、自身が興味関心をもっている会社情報を信頼性の高い情報源から収集し、適切に整理することができている。 b:企業が従業員をはじめ、消費者や地域社会などに対してどのような責任を果たすべきか、協働的に考察構想し、適切に表現している。 c:企業の社会的責任や法令順守の姿勢について主体的に追究して、企業の不祥事が相次いでいる現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。社	考查	考查 ワークシート	ワークシート

※令和4年度以降入学生用

			会の課題を解決する会社をどのように起業していくか,主体的に考察しようとしている。			
第2編1章5国民所得第2編1章6	経済成長と国民の福祉	○経済活動の大きさをはかる指標には何があるのか。 それぞれの指標は, どう関係しているのだろうか。 ・NI から三面等価の原則について考える。 ○経済成長や景気変動の要因とは何か。経済活動の見方であるフローとストックの違いとは何だろうか。 ・経済成長と私たちの豊かな生活について考える。	a:NI の生産分配支出のそれぞれの内容とともに, 3つが理論的に同額になることを理解している。現在においては, GDP などの経済指標では計りきれない福祉的側面からの指標や環境的側面からの指標, 社会的側面からの指標などがあることを理解している。 b:景気変動による私たちの生活と企業の成長への影響や, 政府による景気安定化政策について多面的多角的に考察し構想したりしたことを, 論拠をもって表現している。 c:経済成長による経済的な豊かさと幸福について, 数値化することが困難な経済活動や生活の諸行動をどのように評価するべきかという観点から, 主体的に考えを導きだそうとしている。	考查	考查 ワークシート	ワークシート
第2編1章7金融の役割第2編1章8	日本銀行の役割	○経済活動における資金の流れとはどのようなものか。直接金融と間接金融の違いは何だろうか。 ・金融を通じた経済活動の活性化について考える。 ○日本銀行が実施する金融政策の目的は何か。どのような方法で通貨供給量を調整しているのだろうか。 ・中央銀行の役割について理解する。	a:金融は, 信用創造等により, 家計や企業からの資金を様々な経済主体に投資することで資本を増加させ, 生産性を高め, 社会を豊かに発展させる役割を担っていることを理解している。中央銀行の役割や金融政策の目的と手段について理解している。 b:景気のそれぞれの局面に対処するため, 日本銀行がどのような政策をとっているか, 企業との関係も含めて多面的多角的に考察, 構想したりしたことを, 論拠をもって表現している。 c:金融技術の革新について主体的に追究して, それらをよりよい社会の実現を視野にしながら生かそうとしている。金融商品についての関心を高め, リスクとリターンの関係などをよく理解したうえで, 無理のない資金運用を心がけようとするなど, 学習したことを社会生活に生かそうとし	考查	考查 ワークシート	ワークシート

※令和4年度以降入学生用

			ている。			
第2編1章9	第2編1章9	○経済活動における財政の役割は何か。歳入の柱である租税は、どのようなしくみになっているのだろうか。 ・財政の持つ様々な役割について考える。 ・納税者としての立場から租税のあり方について考える。 ○税制改革とは何か。財政の硬直化が生じる原因とは何か。財政構造改革とはどのような改革なのだろうか。 ・日本の財政の現状を理解し、これからの財政のあり方を考える。	a:財政に求められる機能について理解している。教科書の図を利用して、一般会計の歳入歳出がどのように推移してきたかを適切に読み取ることができている。累進課税制度について、計算方法も踏まえながら理解している。日本の財政の現状と課題について、教科書の本文やの時事コラムなどの内容理解や複数資料の読み取りを通じて理解している。主要な直接税と間接税について、各税を増税した場合のメリットとデメリットを信頼性の高い情報源から収集し、適切に整理することができている。 b:一般会計の歳入歳出について、一部項目が大きく増加した背景を考察し、適切に表現している。プライマリーバランスの改善や債務残高の減少に資する方策について、多面的多角的に考察し、論拠をもって表現している。 c:公平な税負担について、主体的に考えを導きだそうとしている。 日本の財政の現状と課題を理解したうえで、財政再建について興味関心をもち、歳出減と歳入増の両面から再建のための方策を積極的に追究しながら、「財政健全化のあり方」を探究するための意欲を高めている。	考查	考查 ワークシート	ワークシート
第2編2章1	第2編2章1	○日本経済は戦後復興をどのようににはたしたのか。1990年代以降の長期不況に対し、どのような対策がとられたのだろうか。 ・歴史的な事象が日本経済に与えた影響を、統計資料を基に考える。 ・人口減少社会と格差・貧困が経済に与える影響を考える。	a:戦後復興、高度経済成長、バブル経済の発生と崩壊などの背景や要因について理解している。高度経済成長期、安定成長期、現在の成長率について、教科書の図から傾向を適切に読み取り、把握している。教科書の図から「失われた10年」の実態を適切に読み取り、理解している。現在の日本の産業構造やGDPに占める各産業の割合、産業別の労働生産性などを信頼性の高い情報源から収集し、適切に整理することができている。 b:2000年代以降、景気が拡大しても	考查	考查 ワークシート	ワークシート

※令和4年度以降入学生用

		経済成長率が伸び悩んでいる理由について、多面的多角的に考察している。 人口減少社会が直面する経済的課題について協働的に考察したうえで、そのための経済政策を選択判断し、表現している。今後の日本経済のあり方について、収集した諸情報にもとづいたうえで、「効率性」と「公平性」といった観点も踏まえながら多面的多角的に考察し、表現している。 c:教科書の時事コラムなどを踏まえつつ、今後の日本経済がどのような豊かさを目指していくべきかについて主体的に追究して、よりよい社会の実現を視野に学習したことを社会生活に生かそうとしている。			
第2編2章2中 小企業と農業	○日本の中小企業の現状と課題は何か。国際化の影響を受ける農業には、どのような農政が必要なのだろうか。 ・経済の二重構造に注目して日本経済のあり方を考える。 ・社会とのかかわりに着目して、これからの中小企業の姿を考える。 ・農業の自由化を背景として改革が進められている農政について考える。	a:教科書の図などから情報を適切に読み取り、中小企業と大企業の違いを理解している。中小企業が日本経済の発展に寄与してきた役割について理解している。後継者不足のために黒字経営であっても廃業を選ぶ中小企業がある状況を知り、事業承継が課題となっていることを理解している。ベンチャー企業や社会的企業のように、大企業では事業を進められなかった分野で活躍する中小企業のあり方について理解している。中小企業を支援すべき理由について、教科書の内容や信頼性の高い情報源から収集した内容などを手掛かりとしながら、適切に整理することができている。 教科書本文と図から、農家数の推移や農家の構成などを適切に読み取り、日本の農業における担い手の問題を理解している。農業基本法や食料農業農村基本法、食糧管理制度や新食糧法などの農業政策の流れについて理解している。食料安全保障の観点から、日本の食料自給率と貿易の関係について理解している。農業法人による大規模化や6次産業の進展、スマート農業の振興など、日本の農業の新しい流れ	考査	考査 ワークシート	ワークシート

※令和4年度以降入学生用

		れについて理解している。 b:日本経済における中小企業の構造的な課題について、大企業との関係や国際化の観点から多面的多角的に考察している。日本経済の基盤ともいえる中小企業が、自立的に成長していける環境を作り出すためにどのような政策が必要か、協働的に考察し、その結果を適切に表現している。所得補償金などによって小規模農家を保護するべきか、規制緩和で大規模経営を振興するべきか、といった観点で日本の農業について協働的に考察構想や政策判断をし、それらを適切に表現している。持続可能な農業への取り組みと消費者とのかかわりについて多面的多角的に考察し、表現している。 c:食料安全保障について主体的に追究し、自給率向上などの日本農政の課題を意欲的に解決しようとしている。 6次産業化や高付加価値農産品、スマート農業の進展など農政の新しい動きに注目し、これらの学習の成果を将来の職業選択などにおいて生かそうとしている。 中小企業をめぐる現状を理解したうえで、ベンチャー企業のあり方について興味関心をもち、「起業」について探究するための意欲を高めている。農業をめぐる現状と課題を理解したうえで、これからの日本の農業について興味関心をもち、「持続可能な農業のあり方」を探究するための意欲を高めている。			
第2編2章3消費者問題	○さまざまな消費者問題に、行政や消費者自身はどう対応しているのか。消費者の権利と義務とは何だろうか。 ・消費者行政の内容を知り、契約の権利と責任の関係を考える。	a:典型的な消費者問題や悪質商法にはどのようなものがあるか理解している。消費者保護基本法から消費者基本法にいたる消費者行政の内容を知り、求められる消費者像の変遷について理解している。消費者相談の実態について、国民生活センターのウェブサイトから情報を適切に読み取り、それらをまとめることができている。契約の効力が発生する要件や、消費者契約	考查	考查 ワークシート	ワークシート

※令和4年度以降入学生用

			法に定められている契約取り消しの意義などについて理解している。 b:消費社会の拡大や過度な宣伝等について問を見出し、消費者主権や消費者の権利の観点などから協働的に考察構想し、それらを適切に表現している。 消費者の権利と責任について、自由と義務の観点から整理し、レポートにまとめるなど適切に表現している。 c:消費者の自立と自己責任について関心を深め、消費者の権利と責任に関する課題を意欲的に解決しようとしている。よりよい社会の実現を視野に、消費者問題について学習したことを社会生活に生かそうとしている。			
第2編2章4	公害防止と環境保全	○公害はなぜ発生するのか。公害防止や環境保全のためには、どのような対策が必要なのだろうか。 ・経済成長と公害問題との関係を考える。 ・法制度の整備のほか、私たち消費者の行動について考える。	a:日本における公害の発生と原因を理解している。また、教科書の表などから必要な情報を適切に読み取っている。政府による公害対策や環境保全のための法整備について理解している。循環型社会の理念を理解している。また、3Rの原則について理解し、その実態を信頼性の高い情報源から収集し、適切に整理することができている。 b:環境保全と経済活動の両立について協働的に考察したうえで選択判断し、それらを適切に表現している。循環型社会の実現における課題を見出し、法制度と消費者の観点から協働的に考察構想し、それらを適切に表現している。環境保護に向けた取り組みのあり方について、多面的多角的に考察している。 c:日本の公害問題と環境政策に関する理解のもとで、今後の環境問題の解決方法について主体的に追究して、課題を意欲的に解決しようとしている。よりよい社会の実現を視野に、循環型社会の実現に向けた諸施策など学習したことを、社会生活に生かそうとしている。	考查	考查 ワークシート	ワークシート

※令和4年度以降入学生用

第2編2章5労働問題と労働者の権利 第2編2章6こんにちはの労働問題	第2編2章5労働問題と労働者の権利 ○労働者の権利は、どのようにして確立してきたのか。労働基本権を具体化する労働三法とはどのような法律だろうか。 ・労働法の整備状況や、職場の人権保障について考える。 ○日本の伝統的な雇用形態は、どう変化してきたか。職場における人権の課題にはどのようなものがあるのだろうか。 ・日本の雇用形態の変化や、ワーク・ライフ・バランスについて考える。	a:労働基本権と労働三法の内容について理解している。職場における不当な差別的扱いがあってはならず、そのための法整備と対策が急がれることを理解している。「女性と労働」といった主題について、教科書の資料を活用しながら日本でみられる傾向やその背景を適切に読み取り、まとめることができている。具体的な労働問題について、教科書の資料などを活用し、理解している。日本的雇用形態の特徴を理解しており、また、それらのあり方が崩れてきていることを理解している。日本の労働環境について、教科書本文の内容や信頼性の高い情報源から収集した内容、労働環境に関する各国資料を足掛かりとしながら日本の特徴を適切に読み取り、まとめることができている。 b:なぜ労働法規によって労働者の権利保護が図られているのか協働的に考察し、それらを適切に表現している。どうすれば職場における不当な差別的取り扱いが解消できるのか、多面的に考察している。非正規雇用の労働者が置かれている厳しい状況について、権利の保障や保護の観点から課題と解消のための政策を協働的に考察構想し、それを適切に表現している。 c:教科書の問いを活用して会社情報や労働条件に対する興味関心を高め、就業に際して自身が重視する観点を主体的に追究しようとしている。日本の労働をめぐる現状と課題を理解したうえで、諸外国の労働環境やこれからの日本の労働環境について興味関心をもち、「日本におけるワークライフバランスの実現」を探究するための意欲を高めている。よりよい社会の実現を視野に、ワーキングプアの解消やワークライフバランスの実現を目指して、学習した内容を社会生活に生かそうとしている。	考查	考查ワークシート	ワークシート
--	--	---	-----------	-----------------	---------------

※令和4年度以降入学生用

第2編2章7社会保障の役割と課題	○社会保障制度は、どのように発展してきたのか。日本の社会保障制度のしくみと課題は何だろうか。 ・諸外国の制度との比較も含めて考える。 ・少子高齢化や日本の財政の現状も踏まえながら、今後の課題を理解する。	a:社会保障の考え方を知り、それらが歴史的にどのように制度化されてきたかについて理解している。日本の社会保障制度が諸外国との比較でどのようなものであるかを読み取り、また、その概要を理解している。少子高齢化が進行する中で、社会保障が直面している問題について、とくに財政的な課題を教科書の図などから適切に読み取り、理解している。社会保障は高齢者だけのものではなく、社会に参加するすべての世代について検討されるべきものであることを理解している。各国の社会保障のしくみを信頼性の高い情報源から収集し、長所と短所を比較する形で適切に整理することができている。 b:社会保障のあり方について、税金中心のしくみと社会保険中心のしくみでどのような違いがあるか協働的に考察し、それらを適切に表現している。日本の社会保障制度の現状と課題について、多面的多角的な観点（少子高齢化、年金制度、負担と給付のバランス）に立ちながら考察し、適切に表現している。 c:安心して暮らせる豊かな社会について主体的に追究して、社会保障を社会の中で有効に働かせるための課題を意欲的に解決しようとしている。よりよい社会の実現を視野に、ノーマライゼーションの進展について学習したことを社会生活に生かそうとしている。日本の社会保障をめぐる現状と課題を理解したうえで、諸外国の社会保障制度やこれからの日本の社会保障制度について興味関心をもち、「日本における持続可能な福祉社会の実現」を探究するための意欲を高めている。	考查	考查ワークシート	ワークシート
第3編現代	・少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、地域社会の自立と政府、多様な働き方・生き方を可能に	a:各課題に関連する知識（小学校および中学校で習得した概念などに関する知識や『公共』で身に付けた選択判断の手掛かりとなる考え方、政治およ	考查	考查ワークシート	ワークシート

※令和4年度以降入学生用

	日本における諸課題の探究	する社会、産業構造の変化と起業、歳入・歳出両面での財政健全化、食料の安定供給の確保と持続可能な農業構造の実現、防災と安全・安心な社会の実現などについて、取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方についての自分の考えをつくる。	び経済の基本的な概念や理論など)を整理し、理解している。各課題の解決に向けた考察構想に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けている。 b:社会的な見方考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。 c:よりよい社会の実現のために、現代日本の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的多角的な考察構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。			
	第1編1章1 国際社会と国際法 第1編1章2 国際社会の変化	○国際社会を構成する要素は何か。国際法とは何か。領土問題の発生にはどのような原因があるのだろうか。 ・国内政治や国内法との比較で考える。 ○国際社会における戦争観や人権の考え方はどう変化したか。国際社会におけるNGOの役割とは何だろうか。 ・二度の世界大戦が国際法と国際政治に与えた影響について考える。	a:主権国家と国際社会の成り立ちについて理解している。国際社会には中央政府のようなものが存在しておらず、そのなかで各国が国家利益を調整する国際政治が行われていることを理解している。主権の及ぶ領域について、教科書の図などから必要な情報を適切に読み取り、主権国家の理解を深めている。教科書の本文を利用して、条約の効力について理解している。領土問題がなぜ生じるのか、また、どのように解決することが望まれているのかを理解している。二度の世界大戦を契機として、国際法に大きな変化が生じたことを理解している。国際司法裁判所や国際刑事裁判所が設立され、NGOをはじめ多様な主体が活動するなど、国際政治に変化が生じていることを理解している。 b:国際政治や国際法はどのようなものなのか、国内政治や国内法との違いに着目してまとめるなど、適切に表現している。領土問題について問いを見出し、平和的に解決する観点から協働的に考察構想し、それらを適切に表現している。世界政府のような超国家的存在を設けた場合の問題点について、主権国家の権利の観点などから協働的に考察構想し、それらを適切に表現	考查	考查 ワークシート	ワークシート

※令和4年度以降入学生用

		している。 c:NGO の取り組みについて主体的に追究し、環境保護や人権擁護に関する課題の解決を意欲的に検討している。 よりよい社会の実現を視野に、主権国家間の国家利益を調整することについて学習したことを、他者との利害調整といった社会生活に生かそうとしている。			
第1編1章3	○集団安全保障とは何か。 国際連合は、国際連盟と比べてどのような点が異なっているのだろうか。 ・主要機関や専門機関の働きから考える。 ・安保理改革などを材料に国際連合の課題を考える。 国際連合と国際協力	a:国際連盟の成立と崩壊の歴史的経緯について理解している。勢力均衡と集団安全保障の違いについて理解している。国際連盟と国際連合の違いについて、教科書の資料などから必要な情報を適切に読み取ることができている。安全保障理事会の機能について理解している。また、安保理改革として求められている内容を理解している。国連が取り組む課題について、信頼性の高い情報源から収集し、適切に整理することができている。 b:国際連合が抱えている課題について、採決や財政の観点などから協働的に考察し、それらを適切に表現している。安保理改革の必要性について、大国一致の原則や拒否権の行使の観点から協働的に考察構想し、それらを適切に表現している。紛争をなくしていくためのルールや制度について協働的に考察し、それらを適切に表現している。 c:国際連合の専門機関が取り扱っている人権や社会、経済や環境問題に関する行動について主体的に追究し、国際的な課題を意欲的に解決しようとしている。国際連合のしくみや取り組みを理解したうえで、国際社会における平和の実現について興味関心を持ち、「持続可能な平和のあり方」を探究するための意欲を高めている。	考查	考查 ワークシート	ワークシート
第1編1章4	○冷戦の終結によって、国際社会はどうか変わったのか。紛争やテロの背景にはどのようなものがあるのだ	a:冷戦構造の概要について理解している。教科書の図などから、冷戦終結後に民族紛争が多発したことを適切に読み取っている。国家間の戦争が対	考查	考查 ワークシート	ワークシート

※令和4年度以降入学生用

ん に ち の 国 際 政 治	ろうか。 ・対立構造の変容から、国際社会の力学の変化を考える。 ・大国の動向や、国家対国家の枠組みに収まらない対立構造について考える。	テロ戦争の様相を示しだした経過を理解している。中国やロシアなどの大国が領有権紛争を起こしていることや、中東の民主化運動により地域全体が不安定化していること、米中対立の深化など、今日的な国際政治の課題を理解している。冷戦終結後の「平和に対する脅威」の具体例について、信頼性の高い情報源から収集し、適切に整理することができている。 b:冷戦終結後に地域民族紛争が多発したことについて、その要因を多面的多角的に考察している。冷戦後の「平和に対する脅威」をとりのぞくために何が必要か、といった観点で協働的に考察構想し、それらを適切に表現している。 c:国際社会における法の支配について主体的に追究し、各国の国益を超えた問題解決に向けて意欲的に考察している。			
第1編1章5人種・民族問題	○人種・民族問題はなぜ生じるのだろうか。問題解決のためには、国際社会でどのような取り組みが必要なのだろうか。 ・ナショナリズムや自民族中心主義との関係から考える。	a:人種問題について、具体例（公民権運動、アパルトヘイト）を踏まえながら理解している。民族問題について、教科書の時事コラムなどを利用して、問題の所在や解決に向けた働きかけの推移について理解している。教科書のトピックを利用して、アフリカの政治的な課題について理解している。教科書の時事コラムなどから情報を適切に読み取り、難民をめぐる動向や基礎的な統計情報を理解している。多民族国家としてマイノリティを抑圧しないために、多文化主義に立つことが重要であることを理解している。 b:紛争の背景を踏まえながら、その防止策や解決に向けた国際社会の取り組みについて協働的に考察構想し、適切に表現している。難民や国内避難民について、どのような援助が必要とされているのかを協働的に考察構想し、それらを適切に表現している。多文化主義を取り入れていくことに関する課題を見出し、その解消に向けて協働	考查	考查 ワークシート	ワークシート

		的に考察構想し、それらを適切に表現している。異なる民族の共存やそれを実現するための政策について考察し、適切に表現している。 c: 難民や国内避難民について主体的に追究し、いかにしてその支援等に寄与することができるかなど、意欲的に解決しようとしている。よりよい社会の実現を視野に、多文化主義について学習したことを、日常生活における他者との関係において生かそうとしている。人種民族問題や紛争の背景や影響を理解したうえで、国際社会における難民の現状や平和の実現について興味関心をもち、「日本における難民問題」や「持続可能な平和のあり方」を探究するための意欲を高めている。			
第1編1章6軍拡競争から軍縮へ	○核抑止論とは何か。軍縮はどのように進んできたのか。核廃絶の動きにはどのようなものがあるのだろうか。 ・ 冷戦による対立構造と安全保障のジレンマを確認する。 ・ 核兵器禁止条約の採択に向けた動きを参考にして考える。	a: 核抑止論の考え方について理解している。また、安全保障のジレンマのために軍縮が進めにくくなっている構造について理解している。核廃絶に向けた運動が盛り上がるなか、数々の軍縮条約が締結されていった経過について理解している。NPTに参加しない国があることや、CTBTの発効の見通しが立たない状況など、核廃絶に向けて課題が残されていることを理解している。核兵器禁止条約の歴史的意義について理解するとともに、核保有国や日本が参加していない理由や課題についても理解している。 b: 安全保障のジレンマを乗り越えて軍縮を進めていくためには何が必要となされるか、協働的に考察構想し、それらを適切に表現している。核保有国を増やさないためにはどのようなことが必要か、多面的多角的に考察している。 c: 核兵器禁止条約について主体的に追究し、賛成を表明した国と反対した国の主張を比較して、さらに多くの国が参加するためには何が必要なのか、意欲的に検討し解決しようとしている。よりよい社会の実現を視野に、軍	考查	考查 ワークシート	ワークシート

※令和4年度以降入学生用

			縮における合意形成の過程を参考に して、他者との意見調整などに生かそ うとしている。			
第1編1章7日本 の 外 交 と 国 際 社 会 で の 役 割	○戦後日本の外交はどう展 開されてきたか。日本は国 際社会でどのような役割を 求められているのだろうか。 ・とくにアジア諸地域の信 頼回復の経緯を確認する。 ・人間の安全保障の観点か ら考える。	a:戦後の主権回復と国際社会への復 帰について、その経過を理解してい る。アジア諸国との国交正常化が進め られる一方、賠償のあり方をめぐって 裁判が繰り返されるなど、根本的な解 決には至っていない現状を理解して いる。北朝鮮による拉致被害と人権侵 害について、国際連合も日本を支持す る決議を出しているなど、解決が望ま れていることを理解している。教科書 の図などから情報を読み取り、日本が 北方領土と竹島において領土問題を 抱えていることを理解している。 ODA や PKO などの国際貢献活動に ついて、広く理解している。 b:日本の領土問題について、平和的な 解決のために必要なことを多面的に 考察している。国際の平和と安全のた めに、国連機構や加盟国が果たすべ き役割(とくに日本が今後の国際社会 で果たすべき役割)について協働的に 考察構想し、それらを適切に表現して いる。 c:国際貢献について主体的に追究し、 政府レベルや企業レベル、市民レベル の観点から、課題を意欲的に解決しよ うとしている。国際社会で日本が果た すべき役割について考察を深めるな かで、国際社会における平和の実現に ついて興味関心をもち、「持続可能な 平和のあり方」を探究するための意欲 を高めている。	考查	考查 ワークシ ート	ワークシート	
第2編1章1貿易 と 国	○自由貿易や保護貿易の考 え方が主張された背景は何 か。国際収支は、どのよう に分類できるのだろうか。 ・比較生産費説を検討して 考える。 ・貿易収支の数値から一国	a:自由貿易のメリットを、比較生産費 説をもとに理解している。国際分業の 利益について、多国籍企業の展開と合 わせて理解している。保護貿易が提唱 される理由を理解している。また、近 年では先進国においても保護貿易的 な動きがみられることを理解してい	考查	考查 ワークシ ート	ワークシート	

※令和4年度以降入学生用

際 収 支 第2 編1 章2 外国 為 替 市 場 の し く み	の貿易の動向を確認する。 ○外国為替とはどのようなしくみか。為替レートの変動が経済にもたらす影響にはどのようなものがあるだろうか。 ・外国為替市場における需要と供給の関係を確認する。 ・具体的な事例を基にして為替相場の動向が経済に与える影響を考える。	る。国際収支の考え方を理解している。また。教科書を踏まえて、各時代における貿易のあり方にどのような特徴があったかを読み取ることができている。教科書の図などから必要な情報を読み取り、外国為替のしくみについて理解を深めている。円高や円安が日本経済に与える影響について、輸入業者や輸出業者の具体的な取引をもとに理解している。 b:自由貿易が世界全体の発展に寄与するという仮説が適切かどうか、協働的に考察し、それを表現している。日本経済にとって、円高傾向がよいのか円安傾向がよいのかについて、協働的に考察し、それらを適切に表現している。 c:自由貿易を推進するメリットと、近年先進国が保護貿易的な動きを見せていることについて主体的に追究し、望ましい貿易のあり方を意欲的に探究しようとしている。円高や円安が輸出輸入価格に影響することを踏まえて、円相場の変動にあわせて輸入品や外国株式の購入時期を検討しようとするなど、社会生活に生かそうとしている。			
第2 編2 章1 第 二 次 世 界 大 戦 後 の 国 際 経 済	○戦後のIMF体制は、どのように変遷したか。貿易自由化をめざすWTOがかかえる課題は何だろうか。 ・本文や図版資料を基に、歴史的な経過を確認する。 ・ドーハラウンドにおける先進国と途上国の対立や、二国間交渉への傾倒などから課題を考える。	a:IMFとGATTに代表される国際経済体制について、その概要を理解している。固定為替相場制から変動為替相場制へと移行した歴史的な経過について理解している。GATT、WTOにおける多角的交渉が目指したものについて理解している。 b:ドーハラウンドにおける協議がなぜ停滞しているのか、多面的に考察している。公正な国際貿易体制とはどのようなものか、協働的に考察し、それらを適切に表現している。 c:WTOが国際経済体制に果たす役割について主体的に追究し、ドーハラウンドが抱えている課題を意欲的に解決しようとしている。公正な国際貿易体制のあり方について主体的に追究	考查	考查 ワーク シート	ワークシート

※令和4年度以降入学生用

			し、各国が従うべき貿易のルール作りに関する課題を意欲的に解決しようとしている。			
第2編2章2国際経済の動向	第2編2章3新興国の台頭	○経済統合はどのように進展していくのだろうか。各地域で進んでいる貿易協定にはどのようなものがあるのだろうか。 ・各地域の状況を確認する。 ・多角主義の原則から二国間協定への流れ、さらにメガ FTA の挑戦といった過程を確認する。 ○急成長をとげる新興国の現状と課題は何か。こうした新興国の動向は、国際経済にどのような影響を及ぼしているのだろうか。 ・中国とインドについて、その現状と課題を理解する。	a:FTAやEPAがどのようなものであるのかを理解している。EU を例として、どのように統合が深化していったかを理解している。各地域でどのような経済統合が形成されていったかについて理解している。また、教科書の図などから情報を読み取り、各地域的経済統合についての理解を深めている。世界経済が密接に関連しあい、グローバルバリューチェーンを形成していることを理解している。新興国の中でも、とくに中国とインドが世界的な影響力を強めていることを理解している。急速な経済成長を進める中国とインドが、国内において多様な課題をかかえていることを理解している。資料を通じて、アメリカと中国の経済状況の違いを適切に読み取っている。中国やインドが"国際経済のなかで"直面している課題について、信頼性の高い情報源から収集し、適切に整理することができている。 b:EU の統合について課題を見出し、各国の経済的格差の課題などについて協働的に考察し、適切に表現している。TPP11 が日本経済にもたらす影響について、多面的に考察している。地域的経済統合がもつメリットとデメリットについて、自由と公正の観点から協働的に考察し、適切に表現している。 c:EU の統合について主体的に追究し、そのなかで生じたイギリスの離脱に見られるように経済統合のひずみをどのように解消するかを意欲的に検討している。TPP11 や RCEP について主体的に追究し、今後の日本が各国との貿易においてどのように主導的な役割を果たしていくべきか、意欲的に検討しようとしている。	考查	考查 ワークシート	ワークシート

※令和4年度以降入学生用

第2編 第4章 経済のグローバル化とICTでかわる世界経済	○グローバル化の進展は、経済や社会にどのような影響を及ぼしたのだろうか。どのような課題が生じているのだろうか。 ・ヒト・モノ・カネが自由に移動した結果、世界はこれまで以上に緊密化したことを確認する。 ・金融危機などの影響もグローバル化し、富の偏在も世界規模に拡大したことを確認する。	a:グローバル化した世界において、多国籍企業が存在が大きくなっていることを理解している。グローバル化によって人の往来が活発になり、そのなかで共生が課題となっていることを理解している。金融のグローバル化の結果、資本の国際取引が活発になったが、その一方で投機的資金の移動が実体経済を脅かすこともあることを理解している。グローバルな労働者移動の現状と課題、ICTやAI技術が国際社会に影響を及ぼしている事例について、信頼性の高い情報源から収集し、適切に整理することができている。 b:共生の課題について、経済移民を労働力ではなく「生活人」として擁護するためにはどうすればよいか、協働的に考察構想し、それらを適切に表現している。国際的な資本取引に対する金融規制をどう考えるかについて協働的に考察し、適切に表現している。グローバリゼーションがもたらすメリットとデメリットにはどのようなものがあるか、多面的に考察している。ICTやAI技術の普及にともなうメリットとデメリットについて協働的に考察し、適切に表現している。 c:国際的な資本取引に対する金融規制について主体的に追究し、OECDにおける議論などを参考にしながら意欲的に解決しようとしている。よりよい社会の実現を視野に、グローバリゼーションと共生の課題について学習したことを、自らの生活圏内に生きる外国人労働者に対するまなざしの中で生かそうとしている。「グローバル化の進展と労働力移動」や「ICTやAI技術」に関する理解を深めるなかで、それぞれの進展によって生じる課題について興味関心をもち、「外国人労働者との共生のあり方」や「自動運転技術のあり方」を探究するための意欲を高めている。	考查	考查ワークシート	ワークシート
--	---	--	-----------	-----------------	---------------

※令和4年度以降入学生用

3 学 期	第2 編2 章5 発 展 途 上 国 の 課 題 と 展 望	○南北問題の解決に向け、発展途上国はどのように対応してきたのか。南南問題とはどのようなものだろうか。 ・資源ナショナリズムや新国際経済秩序樹立に関する宣言などを通して考える。 ・途上国間の経済格差について理解する。	a:南北問題について、その背景と現状について理解している。資源産出国が自国の権益を保護しようとした歴史的な経過について理解している。発展途上国の中でも、高い成長を記録した国がある一方、絶対的な貧困に悩む国がある現状を理解している。 b:モノカルチャー経済に依存する経済上の問題について多面的多角的に考察し、表現している。途上国の貧困削減の取り組みの進め方について多面的に考察し、適切に表現している。 c:よりよい社会の実現を視野に貧困を解消するための具体的な行動について積極的に考察し、社会生活に生かそうとしている。世界の貧困状況やそれを解消するための取り組みについて興味関心をもち、「国際経済格差の是正」を探究するための意欲を高めている。	ワークシート	ワークシート	ワークシート
	第2 編2 章6 地 球 環 境 問 題、 資 源 エ ネ ル ギ ー 問 題	○化石燃料はなぜ大量消費されるのか。大量消費にともなう課題の解決に向け、どのような取り組みが進んでいるのだろうか。 ・エネルギー資源の歴史と化石燃料が大量消費される背景を理解する。 ・地球温暖化問題をめぐる現状と課題について理解する。	a:化石燃料と再生可能エネルギーの特徴について、それぞれ理解している。教科書の図などから、世界の一次エネルギー消費量について、その推移と現状を読み取ることができている。パリ協定やSDGsの目標をめぐる現状と課題について理解している。パリ協定にもとづく各国の二酸化炭素削減目標について、信頼性の高い情報源から収集し、適切に整理することができている。 b:調べて整理したパリ協定にもとづく各国の二酸化炭素削減目標を踏まえながら、日本がその目標を達成実現するための手段について協働的に考察し、適切に表現している。 c:地球温暖化や資源エネルギーをめぐる現状を理解したうえで、脱炭素社会の形成について興味関心をもち、「地球環境問題、資源エネルギー問題」を探究するための意欲を高めている。	ワークシート	ワークシート	ワークシート

※令和4年度以降入学生用

第2編2章7 経済協力と日本の役割	○貧困や飢餓の問題に対して、先進国や国連はどう対応しているか。日本のODAの現状と課題は何だろうか。 ・援助と開発の過程について確認する。	a:先進国による援助の中心としてODAがおこなわれてきたことを理解している。教科書の図などから情報を読み取り、先進国のODA実績の動向について理解を深めている。アフリカ経済の現状や日本のアフリカに対する経済協力のあり方、JICAによる具体的な活動事例などについて、信頼性の高い情報源から収集し、適切に整理することができている。 b:日本のODAの特徴と課題はどのようなものか、資金の用途や貸与方式などの観点から協働的に考察し、適切に表現している。これからの日本のODAのあり方について、教科書の問いを利用して多面的多角的に考察し、適切に表現している。アフリカをめぐる動向について調べたうえで、望ましい国際協力のあり方について協働的に考察構想し、それらを適切に表現している。 c:国際社会における貧困と格差の解消について主体的に追究し、JICAによる支援活動などについても興味を持ち、それらの課題を意欲的に解決しようとしている。途上国をめぐる国際協力の現状について理解したうえで、国際社会における開発と援助の現状や平和の実現について興味関心を持ち、「国際経済格差の是正」や「持続可能な平和のあり方」を探究するための意欲を高めている。	ワークシート	ワークシート	ワークシート
第3編 国際社会における諸課	・グローバル化に伴う人々の生活や社会の変容、地球環境と資源・エネルギー問題、国際経済格差の是正と国際協力、イノベーションと成長市場、人種・民族問題や地域紛争の解決に向けた国際社会の取組、持続可能な国際社会づくりなどについて、取り上げた課題の解決に向けて政治と経済とを関連させて多面的・多角	a:各課題に関連する知識(小学校および中学校で習得した概念などに関する知識や『公共』で身に付けた選択・判断の手掛かりとなる考え方、国際政治および国際経済の基本的な概念や理論など)を整理し、理解している。各課題の解決に向けた考察・構想に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けている。 b:社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の	ワークシート	ワークシート	ワークシート

※令和4年度以降入学生用

	題 の 探 究	的に考察，構想し，よりよい社会の在り方についての自分の考えをつくる。	形成に向けた自身の考えを説明，論述している。 c:よりよい社会の実現のために，国際社会の諸課題を主体的に追究し，他者との協働もはかりながら，多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。			
--	------------------	------------------------------------	--	--	--	--

※ 表中の観点について a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

令和7年度 公民科

教科	公民	科目	公共演習	単位数	1単位	年次	3年次
使用教科書	「高等学校 公共」(第一学習社)						
副教材等	「最新公共 資料集 2023」(第一学習社)、 「入試対策問題集ステップアップ 公共、政治・経済」(第一学習社)						

1 担当者からのメッセージ(学習方法等)

共通テストで出題される「地理総合・公共」の公共分野を演習形式で学びます。1年で学んだ公共の内容をしっかりと理解したうえで、思考力を働かせて様々な出題形式に慣れていきましょう。前半は1年生で授業時間が不足した国際政治、国際経済を重点的に学びます。

2 学習の到達目標

- (1) 1年で学習した公共の知識・理解と思考・判断をさらに深める。共通テストの「地理総合・公共」を想定した演習問題のうち、公共分野の問題をできる限り多く解いて、共通テストが求める学力水準到達をめざして学習活動を行う。
- (2) 資料やデータを論理的、批判的に分析し、複合的に社会的事象を考察する理からを身につける。
- (3) 一人の市民として社会的良識を育み、自覚的に他社や社会にかかわろうとしている。

3 評価の観点及びその趣旨

観 点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	国際経済・国際政治の動きを中心に、「公共」分野を理解するのに必要な基本的な知識や資料・データを理解するのに必要な力を身に付けている。 これら知識・技能をもとに演習問題に取り組める。	政治・経済の各領域において、基本的知識や資料・データを論理的、批判的に分析、探究して、複合的に社会的事象を考察する力を身に付けている。他者との協働を含め、考察をまとめて表現する中で、考察を広げたり深めたりしている。これらの思考・判断をもとに演習問題に取り組める。	グローバル社会における国際経済、国際政治の動きなどのテーマにかかわって、社会的思考を行うことができる。世界市民としての社会的良識を育み、自覚的に他者や社会に関わろうとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	国際社会と経済	(1) 国際分業と国際貿易体制 (2) 国際収支と為替相場 (3) 経済のグローバル化と日本 (4) 地域的経済統合の動き (5) 国際社会における貧困と格差 (6) 地球環境問題	a: 基本的知識に加え、教科書の記述や資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能が身についている。 b: 国際社会における経済事象と人々の生活や社会の関係について考察し、問いを表現できる。 c: 授業に参加し、協働して活動する中でもっと知りたいと思ったこと、疑問に思うことを具体化、言語化できている。	定期考査	定期考査	提出課題 振り返りシート
	今日の国際社会	(1) 国際社会と国家主権 (2) 国際連合の役割と課題 (3) 人種民族問題と地域紛争 (4) 国際社会における日本の役割	a: 基本的知識に加え、教科書の記述や資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能が身についている。 b: 今日の国際社会と国家の関係について考察し、問いを表現できる。 c: 授業に参加し、協働して活動する中でもっと知りたいと思ったこと、疑問に思うことを具体化、言語化できている。	定期考査	定期考査	提出課題 振り返りシート
2	演習問題の実践練習	(1) 過去のセンター試験の「現代社会」の問題を単元ごとに研究 (2) 想定される共通テストの「地理総合・公共」の公共分野の問題の検討と実践	a: 基本的知識に加え、問題の記述や資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能が身についている。 b: 過去問題、想定問題について考察し、出題の意図や背景を考察し表現できる。 c: 授業に参加し、協働して活動する中でもっと知りたいと思ったこと、疑問に思うことを具体化、言語化できている。	定期考査	定期考査	提出課題 振り返りシート

※令和4年度以降入学生用

3	未来に向けて	未来社会に生きる市民に必要なものは？	a: 基本的知識に加え、教科書の記述や資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能が身につけている。 b: 現代社会の諸課題を考察し、解決に向けてのアイデアや問いを表現できる。 c: 授業に参加し、協働して活動する中でもっと知りたいと思ったこと、疑問に思うことを具体化、言語化できている。	レポート	レポート	レポート 振り返りシート
---	--------	--------------------	---	------	------	-----------------

※ 表中の観点について a: 知識・技能 b: 思考・判断・表現 c: 主体的に学習に取り組む態度